

農業改良助長法

協同農業普及事業の運営に関する指針(R2.8改正)

協同農業普及事業の実施についての考え方(R2.8改正)

反映

宮城県実施方針

協同農業普及事業の実施に関する方針(R3.3月改)

協同農業普及事業の実施に関する方針 (県実施方針(R3~R8))

○普及指導活動の課題と取組

1 みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- (1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援
- (2) 新たな担い手の確保・育成と多様な人材の活躍支援
- (3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援
- (4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援
- (5) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- (1) みやぎの食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援
- (2) 多様化する需要の変化に対応した生産・販路拡大への取組支援

3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- (1) 地域資源や地域の特色を活かした営農・所得確保に向けた取組支援
- (2) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援
- (3) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援

(4) 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

革新支援専門員プロジェクト課題

広域的な課題解決、新技術・革新的技術の普及、民間等との連携

令和3年度普及指導活動方針に基づき重点的に取り組んだ5つのプロジェクト

1 地域農業を支える農業経営体の確保・育成と地域農業の構造改革に向けた取組支援【農地中間管理】

- ・地域農業を担う経営体の確保育成
- ・農地中間管理事業を活用した農地集積・集約化の推進
- ・地域農業の構造改革を図る取組支援



2 園芸産出額増大と地域の特色ある園芸品目生産拡大に向けた産地育成の取組支援【園芸振興】

- ・高度な環境制御を導入した施設園芸の取組
- ・大規模露地園芸に取り組む経営体の栽培技術定着支援
- ・多様なニーズに対応した特色ある園芸品



3 先端技術等の普及拡大と生産性の高い農業の実現に向けた取組支援【アグリテック】

- ・土地利用型農業の効率化・省力化に向けたアグリテックの導入や効果的活用支援
- ・搾乳ロボットなどICT機器を用いた、効率的で生産性の高い農業の実現支援



4 食と農の相互理解と国際水準の農業生産工程管理(GAP)育成・定着支援【GAP】

- ・食と農に対する理解促進
- ・国際的に通用する農業生産工程管理(GAP)に取り組む経営体の育成



5 「なりわい」の創出等、持続可能な農業・農村の構築支援【持続可能な農業・農村構築】

- ・地域資源を活用した特産品づくり
- ・都市と農村の交流促進



〈アグリテックの取組推進〉

- ・アグリテックの実証、効率的な活用等の推進

〈ICT技術の取組推進〉

- ・ICT技術を活用した新たな普及活動の実践

各普及センターが取り組む活動概要

- 1 普及センタープロジェクト活動 35課題 (うち新規16課題, 継続19課題→年度末完了18課題)
- 2 普及センター重点活動 42課題
- 3 普及センター一般活動 活動内容や対象者が広範囲、普及センターの基礎的な活動

○大河原、中山間地域農業の担い手となる集落営農法人の設立・育成
【普及センタープロジェクト活動】
普及指導計画などを基に専門家と協働し、支援を行った結果、農事組合法

人の設立に至った。また、園芸品目の作付けの取り組みでは、作期が分散され面積が拡大し、出荷量も増大している。

○美里 土地利用型法人の早期経営安定
法人役員全てが資金の動きを理解するようになり、収支を含めた単年度経営計画が策定されるようになった。また、地域にあった農地利用計画が開発された。また、「みどり」の拡大を目指し、活動を展開した結果、結果として、生産者への栽培面積の拡大が図られ、年内出荷量は大幅に増加した。

◎登米 きゅうり環境制御技術のスキルアップによる生産拡大(完了)
機器導入生産者を対象に、環境制御技術のスキルアップによる収量向上を目指し活動を展開した。その結果、環境データを活用した栽培管理が定着し、安定して30t以上の収量確保されるようになった。

○気仙沼 ◎仙台 市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展
先進的経営体への技術指導による経営安定(完了)が達成され、環境制御技術等の習得・活用により収量向上を図るとともに、作業改善に向けた取組が行われた。クロマツでは、初出荷に向けて市場を目標に支援を行った。その結果、栽培の振り返り検討などを通じて、

社時効 員が主体となった農場運営が図られ、生産量が増加した。また、作業間の把握などにより、作業の優先度や人員配置の改善が図られ、作業率が向上された。

◎栗原 スマート農業技術の活用による土地利用型作物の生産性向上(完了)
スマート農業技術の活用による効率的な農業の確立を目指し、支援を行った。その結果、ドローンによるセンシングで得られたデータを基に追肥

行事等、管内の整備のほか、作業の標準化準備を目標に支援を行った。その結果、自身の作業標準等情報共有による作業効率向上が実現した。

◎大崎 作業の標準化やGAP方式の導入を通じて、社内での情報共有が図られ、下真山地区における農地整備事業を契機とした地域農業の発展関係機関等と連携しながら、地域の担い手の明確化を図り、営農計画

法人化について話しが進んでいる。また、地域での高収益作物の取組は、県内の大手百貨店への販路を繋いだところ、作付け拡大の動きが見

- 革新: 農業経営の効率化に向けたアグリテックの活用 (中山間地域における導入事例の蓄積、導入効果の「見える化」、アグリテック導入実態調査、アグリテックアドバイザー)
- 革新: ICT技術を活用した新たな普及活動の実践 (新型コロナウイルス感染症下におけるICT活用及びスキル向上)

【普及センター重点活動】

【重点活動項目】

- 1 新たな担い手の確保・育成に関する取組 10項目
 - 2 農業経営の安定化やステップアップ等に関する取組 6項目
 - 3 新たな園芸産地育成に関する取組 13項目
 - 4 地域の実情に合わせた重点的に活動すべき取組 13項目
- 4の主な取組内容
・地域資源活用による地域の活性化
・大郷町粕川地区の地域農業再編支援
・「金のいぶき」による地域活性化に関する取組
・直売センターの新たな販売戦略の構築

※1, 2の項目については、全普及センターで設定。
3, 4については、各普及センターの実情に応じて設定。

【普及センター一般活動】

【一般活動】

- 経営管理の高度化・生産技術改善等の普及指導
- 組織・担い手の確保育成
- 農業者等への情報提供
- 県施策・事業推進に向けた現場支援
- 展示・実証等の設置運営
- 各種調査物の実施・取りまとめ等

※左記に記載した主なプロジェクト課題は、35課題から抜粋した。
()内は主な推進事項等を記載している。
○: 継続課題 ◎: 完了課題